

農業振興公社だより

第十八回総会（臨時総会）開かれる

「理事三人を選任」
 角田市農業振興公社の臨時総会（第十八回総会）が八月二十八日（木）午後一時三十分から角田駅オークプラザイベントホールで開催されました。総会には二十四人の会員が出席（委任状出席含む百十人）しました。



△総会の様子

今回の臨時総会は、公社の構成団体の役員体制の変更等により、三人の理事から辞任届が提出されたことに伴いこれを補うために開催されたものです。
 総会では、西根地区の三浦徹さんを議長に、後任の理事三名を選出しました。

退任された理事、新たに選任された理事は次の通りです。

【退任された理事】

佐藤良一氏（JA・藤尾）

柄目武雄氏（農業委員会・横倉）

佐藤武敏氏（土地改良区・西根）

【新たに選任された理事】

浅野 清氏（JA・柴田）

渡辺俊博氏（JA・東根）

横山誠一氏（農業委員会・佐倉）



△新たに選任された理事の方々

※総会に提案された議案
 議案 第1号議案「理事の選任（補欠選任）について」

◆ 発行 ◆

公益社団法人 角田市農業振興公社
 〒981-1505 宮城県角田市角田字大坊四一
 電話 (0234) 63-1331
 FAX (0234) 61-1511
 URL <http://www.kakunou.or.jp/>
 E-mail kakuda@kakunou.or.jp

【浅野 清氏（JAみやぎ仙南組合長）が副理事長に】

臨時総会終了後、角田駅オークプラザ展示室で理事会が開催され、佐藤良一副理事長の後任にJAみやぎ仙南の代表理事組合長浅野 清氏を副理事長に選定しました。

視察研修を開催しました！
 ～角田市農業機械銀行～

角田市農業機械銀行（理事長 菊地勝治）では、会員の技術向上を目指すため二年に一回開催している視察研修を、八月二十五日、二十六日の二泊二日で開催し、十七名が参加しました。

視察研修の初日は、平成二十年に法人化し、現在栃木県塩谷町で米、小麦、大豆、そば等を作付け、経営面積八十六ヘクタールを誇る株式会社和氣ふあーむを視察しました。これまでの経緯や会社の現状、苦労

話や今後の目標など、参加者は熱心に耳を傾けていました。

また、実際に施設や機械も見せていただき、それぞれの場所で説明を受けました。

参加者からは同じ農業者だからこそその疑問や質問といったものが多く出され、活発な情報交換が出来ました。

研修2日目は、栃木県宇都宮市や福島県須賀川市で農産物直売施設等を視察・見学しました。

直売視察では、実際に商品を手に取り、品質や価格、パッケージデザインなどを確認する参加者の姿が見られました。

今回の研修も大変有意義なものとなりました。



△施設や直売所の見学の様子

「土の塾」で 五名が農作業体験

農業に興味のある方、新たに農業をしたいという方を対象に、あぶくま農学校第十四回「土の塾」が八月二十一日（木）から二十四日（日）の三泊四日の日程で開催されました。「土の塾」には県外から五名が入塾し、百姓先生の家にホームステイしながら農作業を体験しました。

初日の開塾式では、あぶくま農学校の副校長である菊地俊彦角田市教育長より歓迎と激励の挨拶がありました。

開塾式終了後、講座①「新規就農者への支援等」と題して、大河原農業改良普及センターの荒木先生より講義がありました。



△荒木先生による講義の様子

続いて、講座②「農業振興公社と角田市農業の概要」の説明を受けたあと、講座③塾長講話では、小松光一土の塾塾長と、角田の若手農業者で、「角田農業の新しい流れ」と題して、対談が行われました。



△小松塾長と若手農業者の対談の様子

小松塾長が関わってこられたタイの農民との交流など、国際的な視点での対談となりました。

講座終了後、角田を理解してもらうため、市内見学として「四方山」から市内を一望、「農業の館」では堆肥の原料の受入から製品になるまでの説明、「あぐりっと」では店内見学後、調理施設の見学と説明がありました。続いて、ぱびハウスで夕食、そして対面式。その後、緊張した面持ちで塾生たちはホームステイ先に向かいました。

二日目、三日目の農作業体験は、塾生にとっては初めての体験とあって、除草、野菜苗の定植、梨の収穫、牛の餌やりなどの作業に悪戦苦闘し、汗だくになりながらも頑張っていました。



△ブロッコリー苗の定植をする塾生

また、三日目の夜は、慰労と情報交換を兼ねての「百姓講義」。塾生と百姓先生はもちろん、東京農大の先生にも参加頂き、受け入れ先以外の百姓先生方の話しにも耳を傾けたり、車座になって質問や意見を述べるなど、積極的に情報交換を行いました。四日目の閉塾式は、あぶくま農学校の副校長でもある小松塾長からご挨拶をいただき、次いで修了証書を授与していただきました。閉塾式の後にはレポートを作成し、土の塾は無事に終了。



△小松塾長より修了証書を受取る塾生

今年の「土の塾」も暑さの中での開催でしたが、熱中症などの事故や病気もなく、無事に終了することが出来ました。



ご協力いただいた百姓先生はじめ、見学先の皆さま、関係機関のみなさまに御礼申し上げます。

目黒区の子供たちが 農村生活を体験

東京目黒区の小学生九人と引率者五人が、八月一日から三日まで角田市を訪れ、農家にホームステイをしながら、農家生活や自然との触れ合いを体験しました。

この事業は、目黒区青少年国内交流事業として子供たちを角田市に派遣する形で、平成三年から行われてきたものです。角田市ではＪＡみやぎ仙南角田地区青年部が受け入れ、農業振興公社が支援してきました。

しかし、震災後途絶えてしまったことから、目黒区青少年委員のＯＢの方たちが、復活させたいと実行委員会を立ち上げ『めぐろ・こと農村体験・自然ふれあい事業』として今回実現しました。

【レポート】
『八月一日』新幹線と阿武隈急行を乗り継いで角田に到着。シンケンファクトリーで開会式が行われました。その後は角田市役所を表敬訪問、大友市長から歓迎のご挨拶をいただきました。続いて角田郷土資料館、コスモハウス、四方山を訪れ角田の地形や、歴史などを勉強しました。台山公園では滑り台に夢中になった子もいました。

夕方にはＪＡの情報センターで七人（家族）のホストファミリーと対面式を行い、緊張しながらも自己紹介などをするうちに打ち解け、ホストの方と一緒にホームステイ先に向かいました。

「八月三日」全員がマイクロバスに乗って「ミニトマトの収穫」「畜産農家見学」「桃の収穫」ほとんどの子供たちが初めての体験でした。トマトやモモはその場で食べて「とてもおいしい」と笑顔があふれました。畜産農家では「堆肥」の大切さを教え



△引率者がファミリー訪問

「八月二日」それぞれホームステイ先で角田の子供たちと一緒に過ごしました。カブト虫取りや川での魚とり、パンづくり、トマトなど農作物の収穫、昼は流しそうめん、夜は地域の祭り・等々、楽しい1日を過ごしました。



△四方山展望台



△角田市を表敬訪問



△ホストファミリーと対面



△郷土資料館で角田の歴史を学びました

ていただいたり、牛に餌をやったり手を差し伸べたりしていました。昼にはオークフラザで閉会式を行いました。阿武隈急行で元気に帰っていき



△トマト収穫体験



△桃の収穫体験

閉会式・・・



△たのしかったことを話し合いました



△畜舎（牛）見学



△阿武隈急行で帰ります。さようなら・・・

目黒角田絆交流 〜稲刈り体験〜

目黒角田絆交流事業実行委員会（加藤謙佑委員長）では、十月四日〜五日にかけて友好都市である東京都目黒区緑ヶ丘小学校有志児童ら二十七名との交流会を行いました。四日は、角田に到着後、春に田植えを行った交流田の稲を見ながら昼食。その後、手刈りやコンバインによる稲刈りを体験しました。

二時間ほど稲刈りを体験したあと、角田市内にある郷土資料館を見学し、実行委員宅へそれぞれホームステイをしました。



△稲刈りの様子

翌五日は、森谷さん宅で前日に刈り取った米の乾燥機による乾燥調製の行程や牛舎を見学したあと、西根の直売所「めぐりごと」でパーベキューを行い、交流を深めたあと帰路につきました。

緑ヶ丘小学校と北郷小学校との交流は、農業体験事業として平成十三年度から農協青年部の先駆的活動の一環として始まったものですが、震災以降、当面の間交流を見合わせる

ことになりました。そのような中で、交流を継続するために北郷支部の有志、関係者が平成二十五年に『目黒角田絆交流事業実行委員会』を立ち上げたもの。

目黒区立緑ヶ丘小の卒業生が 十年ぶりに交流田を訪問

九月十一日、農業振興公社の事務所に「緑ヶ丘小学校と北郷小学校の交流田を見たい」と言う東京在住のひとりの大学生が訪問しました。彼は現在大学三年生で、今回は大学の卒業論文のために宮城を訪問しましたが、十年前、当時、緑ヶ丘小学校の5年生だった彼が十年ぶりに交流田を訪れ、とても懐かしがっていました。

また、十年前に農家にホームステイしたことも覚えており、久しぶりにホームステイ先の家族とも再会しました。十年ぶりに交流田を訪れて懐かしがっている彼の姿を見て、本当にうれしく思いましたし、十年ぶりにまた交流田に来てくれたと言うだけでも本当に感激です。「継続は力なり」ということわざのとおり、今後も継続してほしいし、公社としても少しでも交流のパイプ役になればと強く感じました。



△懐かしそうに交流田を眺める卒業生

食農教育

あぶくま農学校農業体験学習

「秋」

市内の西根小学校・北郷小学校・枝野小学校で「あぶくま農学校」を開校し、五月に田植えを行ったことは、以前にお伝えしました。

そして九月、稲穂が頭を垂れてきました。いよいよ稲刈りです。

育成会・JA青年部・実行委員会の百姓先生の皆さんから、稲刈りの事前指導と、圃場でも、怪我をしないよう細心の注意のもと丁寧な指導を受け、児童たちも真剣な表情で稲刈りを体験し、刈り終わった後の笑顔に充実感を感じました。

【九月二十七日 西根小学校】

月光原小・西根小



今年度は月光原小の有志の方々・校長先生・PTA会長・教育委員会の方々に参加を頂きました。西根小学校の渡邊校長先生・堀米育成会会長から「今まで管理して頂いた方々に感謝して、稲刈りを頑張りましたよー！」との挨拶を頂いたあと、月光原小児童からのメッセージカードが

紹介され、「頑張って稲を刈るぞー」「おーっ!」との掛け声のもと学習田に移動し稲刈りを行いました。

【十月二日 北郷小学校】

緑ヶ丘小・北郷小



今年も北郷小五年生児童のみの稲刈りとなりましたが、学習田に移動後、加藤JA青年部北郷支部長に挨拶を頂き、JA青年部北郷支部の皆さんの指導を受け、手刈り・コンバイン刈りを体験したあと、緑ヶ丘小・北郷小の看板の前で再開を願って記念撮影をおこないました。

【十月七日 枝野小学校】

前日の台風の影響で少し田んぼに水が溜まっています。齋藤実行委員会会長、富田校長先生から「怪我のないように頑張ってください!」「田植えから稲刈りまでいろいろな手間がかかっている。皆さんに感謝して稲刈りをするようにしましよ

う!」との挨拶を頂いたあと、泥んこになりながらも無事稲刈りを終えました。

上目黒小・枝野小



稲刈り終了後、三校とも「あぶくま農学校修了証書授与式」に出席し、あぶくま農学校副校長の菊地教育長から代表の方に修了証書が授与され、農業体験学習は無事終了しました。

最後に、公的な学校間の交流は途絶えたままですが、目黒区の有志の方々・角田の関係者の方々の「交流の灯を消したくない」という厚い思いにより、交流が継続していることを痛感しております。

先日、十年前に学習田で田植え、稲刈りを体験したことのある目黒区の大学生が、卒業論文を作成するために宮城県を訪れた時、学習田をみたい・当時ホームステイさせて頂いた方にお会いしたいと公社を訪れ、案内いたしました。このように、農業体験は子どもに良い思い出を与えるようです。目黒区の子どもたちが角田の田んぼで農業を体験し、角田の子どもたちと再び交流が出来る日

が早くやって来る事を心より願っています。

【平成二十六年一月から、記帳・帳簿等の保存制度の対象者が拡大されました。】

個人の白色申告者のうち前々年分あるいは前年分の事業所得、不動産所得又は山林所得の合計額が三〇〇万円を超える方に必要とされていた記帳と帳簿書類の保存が、平成二十六年一月からは、これらの所得を生ずべき業務を行う全ての方(所得税及び復興所得税の申告の必要が無い方を含む)について必要となりました。

記帳・帳簿等の保存制度や記帳の内容の詳細は国税庁ホームページ(<http://www.nta.go.jp/>)に掲載されていますので、ご覧下さい。詳しくは最寄りの税務署にお問い合わせ下さい。

問い合わせ先
大河原税務署個人課税課
電話〇二二四一五二二二〇二
※音声案内の後 『2』を選択してください。

お知らせ

【経営所得安定対策の学習会開催について】
東北農政局より講師をお招きして開催しますので、多くの方の参加を願っています。

日時・平成二十六年十一月十九日
(水)
午後一時三〇分
場所・角田駅オークプラザ
イベントホール